

平成 27 年度 中間決算報告書



営業の概況

当中間連結会計期間におけるわが国の経済は、個人消費の回復の遅れや中国を始めとする新興国経済の成長鈍化等の不安要素により、先行き不透明感が解消されない状況が続きました。

放送広告業界においても市況は低調に推移し、テレビ・ラジオとも全般にタイム・スポット収入の減収傾向が目立つ等、厳しい経営環境となりました。

当社グループにも影響は及び、主力の放送事業収入のうちタイム収入が減収となりましたが、スポット収入については前年を上回ると共に、セールス・プロモーション企画の販売等による放送付帯収入が増収となり、さらにインフォメーションプロバイダー事業、企画・制作事業がそれぞれ売上を伸ばしました。この結果、当中間連結会計期間の当社グループの売上高は91億6千万円（前年同期比5.7%増）、営業利益は7億8千万円（前年同期比0.9%増）となりました。経常利益については、BIC株式会社（持分法適用関連会社）を中心に推進するV-Lowマルチメディア放送の開業準備費用の影響により8億3千7百万円（前年同期比4.8%減）となりましたが、賃貸用ビル「メディアセンター」の所有権を賃貸先の東京メトロポリタンテレビジョン株式会社（持分法適用関連会社）に譲渡したことに伴う譲渡益の計上により、親会社株主に帰属する中間純利益は9億円（前年同期比54.3%増）となりました。

当社単体の業績については、売上高が68億2千8百万円（前年同期比2.5%増）となりましたが、利益率の高いタイム収入の減収により放送事業全体の利益率が低下したことに加え、前述のメディアセンターの譲渡により賃貸事業部門の利益が減少した影響等により、営業利益は5億2千9百万円（前年同期比13.9%減）となりました。一方、経常利益については、グループ会社等からの受取配当金の増加により7億8千万円（前年同期比1.5%増）となり、中間純利益については前述の「メディアセンター」の譲渡益を加え10億8千2百万円（前年同期比113.6%増）となりました。

連結事業セグメント別の営業状況は以下の通りです。

<放送事業活動>

当社は平成27年4月、開局45周年を迎えました。当社の行動理念である「アースコンシャス～地球を愛し、感じる心」「ヒューマンコンシャス～生命を愛し、つながる心」を象徴するイベントとして毎年実施している「EARTH×HEART LIVE」を、今回は45周年記念スペシャルとし、4月に開催しました。総合演出の松任谷正隆、松任谷由実、JUJU、秦基博、「JET STREAM」（月～金曜 24:00～24:55）の“機長”大沢たかおが、未来の子供たちに残したい地球を圧倒的な音楽と映像の力で表現。この模様は全国38局ネットで放送したほか、上海電台、中国国際放送、Y. E. S. FM（シンガポール）、Radio Thailand、BBC、カレッジFM（アメリカ）等を通じ、海外のラジオ局へも配信いたしました。

また4月には、開局特別番組「TOKYO FM 45th Anniversary Special～Your Voice, Your Music」を12時間に渡って生放送。ワイド番組のパーソナリティや、山下達郎、桑田佳祐等の当社レギュラーパーソナリティが45年分の感謝を込めてTOKYO FMの歴史を振り返りました。

戦後70年を迎えた8月には、アメリカ文化の洗礼を受ける終戦後の姿を浮かび上がらせた特別番組「ポップコーン・オン・ザ・ギンザ 1945-1952」を放送。同じく8月には作詞家生活45周年を迎えた松本隆のライブ「風街レジェンド2015」を主催すると共に特別番組「JAPANESE POPS REFRAIN 1945-2015」を放送しました。9月には福山雅治のレギュラー番組「トーキングF.M.」（日曜 16:00～16:55）放送1,000回記念として、リスナー招待による公開収録を実施しました。

さらにスマホユーザーを中心とした新たなリスナー拡大のための施策として、番組から選りすぐった話題を読み物記事として配信するニュースサイト「TOKYO FM+」を4月からスタートさせました。Yahoo! ニュースへの配信も実現し、9月単月で500万を越えるPVを達成しました。

7月からは、多言語情報配信チャンネル「TOKYO FM WORLD」をテスト・スタートさせました。世界最大級のインターネットラジオプラットフォーム「TuneIn」上に、日本の音楽、カルチャー等を紹介する多言語コンテンツを配信。急速にニーズが高まっている外国人向けの広告需要に応えるプラットフォーム創造を目指して参ります。

以上のような活動の結果、ビデオリサーチ社首都圏聴取率調査ではコアターゲットのM1・F1（20～34歳男女）区分において、上期首位を獲得。また12～59歳のリーチ（接触率）では10期連続首位を継続するなど、コアターゲット及びその前後の世代に広く支持を広げています。

「V-Lowマルチメディア放送」（i-dio）に関しては、当社は持株会社であるBIC株式会社の筆頭株主として、ハード、ソフト、コンテンツプロバイダー、端末普及全てにおいて一体かつ戦略的に事業推進しております。

ハード事業については、平成26年7月に株式会社VIPが認定を受けましたが、割当周波数が隣接する航空無線と干渉することが判明し、平成27年6月、電波監理審議会を経て新たな周波数割り当てを受け、無線局開設を開始できる環境が整いました。今期上期においては九州・沖縄地域の福岡親局が6月、関東・甲信越地域の東京親局が7月にそれぞれ予備免許を取得しており、年内に本免許となる見込みです。

ソフト事業についても、ハード事業の予備免許交付に前後して各地域で事業者の募集がなされ、九州・沖縄マルチメディア放送株式会社、東京マルチメディア放送株式会社が放送業務認定申請を提出いたしました。（両者の申請に対しては、10月14日に開催された総務省の電波監理審議会において「業務認定適当」の答申がなされております。）安心・安全情報配信システム「V-ALERT」については、今年3月に仙台で開催された国連防災世界会議での展示に続き、8月にブラジルのサンパウロ市で開催された中南米最大の放送機器展「SET EXPO 2015」で総務省が開設した日本パビリオンに出展し、日本の放送方式の優位性をアピールしました。9月には福岡県宗像市と栃木県那須烏山市にV-ALERT専用防災ラジオを納品。宗像市では地滑り危険地域の住民に配布して防災訓練で実際に使用され、その有用性が実証されました。

以上、平成28年3月の放送開始を目指した準備は着実に進んでおります。

<企画・制作事業活動>

企画・制作事業においては、ポール・マッカートニー、テイラー・スウィフトなどの大型海外アーティスト公演に出資参画。演劇ではブロードウェイミュージカル「天使にラブソングを」を主催し大ヒットを記録したほか、漫画やアニメを原作とする“2.5次元ミュージカル”に取り組み、漫画「NARUTO」の舞台化に参画。10代・20代女性を中心に支持を集めるヒット作となりました。

夏の大型野外イベントとしては、8月に「長渕剛10万人オールナイト・ライブ2015in富士山麓」を主催。また、人気番組「SCHOOL OF LOCK!」（月～木曜 22:00～23:55 / 金曜 22:00～22:55）発の夏フェス「未確認フェスティバル」を実施し、予選を勝ち抜いたアーティストによる決勝大会では、若さと才能に溢れた演奏が会場のリスナーたちを熱狂させました。

その他、20世紀美術を代表するルネ・マグリットの大回顧展を東京・国立新美術館で開催（3月25日～6月29日）。映画では夏休み最大の話作「進撃の巨人・前後編」に出資しました。

<インフォメーションプロバイダー事業活動>

連結子会社ジグノシステムジャパン株式会社では、主力事業であるモバイル端末向けコンテンツ配信事業において、通信キャリアが運営する定額アプリ使い放題サービスへのコンテンツ提供事業が引き続き好調を維持し、売上を牽引しました。5月からはソフトバンクによる「AppPass」へのコンテンツ提供がスタートし、主要3キャリアの定額アプリサービス全てにチャンネルを持つこととなりました。

さらに、企業向けアプリやWEBサービスの開発受託を行うソリューション事業においても、既存の顧客からの業務受注の維持・拡大に努めると共に、新規顧客の開拓に戦略的に取り組みました。

<賃貸事業活動>

当社が所有する賃貸用ビルのうちメディアセンター（東京都千代田区）の所有権を、平成27年4月、賃貸先であった東京メトロポリタンテレビジョン株式会社（持分法適用関連会社）に譲渡いたしました。

<その他の事業活動>

昭和60年に誕生し活動30周年を迎えたTOKYO FM少年合唱団がオペラ「魔笛」への出演をはじめ幅広くコンサート活動を行なった他、直営2店舗によるレストラン事業を展開しました。

前年同期比較中間損益計算書（連結）

平成27年4月1日～平成27年9月30日

（単位：千円）

勘定科目	平成28年3月期中間期 (H27. 4. 1～H27. 9. 30)	平成27年3月期中間期 (H26. 4. 1～H26. 9. 30)	前年同期比
売上高	9,160,468	8,669,045	105.7%
売上原価	5,544,289	5,170,567	107.2%
売上総利益	3,616,178	3,498,477	103.4%
販売費及び一般管理費	2,835,519	2,724,589	104.1%
（内のれん償却額）	45,376	45,376	100.0%
営業利益	780,659	773,888	100.9%
（売上高営業利益率）	8.5%	8.9%	
営業外収益	82,646	137,861	59.9%
営業外費用	26,259	32,289	81.3%
経常利益	837,045	879,460	95.2%
（売上高経常利益率）	9.1%	10.1%	
特別利益	575,078	17,473	3291.2%
特別損失	4,519	250	1808.0%
税金等調整前中間純利益	1,407,604	896,683	157.0%
法人税、住民税及び事業税	443,923	74,451	596.3%
法人税等調整額	45,345	226,560	20.0%
中間純利益	918,335	595,671	154.2%
非支配株主に帰属する 中間純利益	17,742	12,177	145.7%
親会社株主に帰属する 中間純利益	900,593	583,494	154.3%

（注）金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

前年同期比較中間損益計算書（当社単体）

平成27年4月1日～平成27年9月30日

(単位:千円)

勘定科目	平成28年3月期中間期 (H27.4.1～H27.9.30)	平成27年3月期中間期 (H26.4.1～H26.9.30)	前年同期比
売上高	6,828,967	6,665,122	102.5%
売上原価	4,272,677	4,026,444	106.1%
売上総利益	2,556,290	2,638,678	96.9%
販売費及び一般管理費	2,026,556	2,023,213	100.2%
営業利益	529,734	615,464	86.1%
(売上高営業利益率)	7.8%	9.2%	
営業外収益	275,972	181,435	152.1%
営業外費用	25,212	27,569	91.5%
経常利益	780,494	769,330	101.5%
(売上高経常利益率)	11.4%	11.5%	
特別利益	718,957	500	143791.6%
特別損失	1,133	250	453.3%
税引前中間純利益	1,498,319	769,580	194.7%
法人税、住民税及び事業税	398,262	57,150	696.9%
法人税等調整額	17,644	205,664	8.6%
中間純利益	1,082,411	506,764	213.6%

(注)金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

前年同期比較売上高内訳書(当社単体)

平成27年4月1日～平成27年9月30日

(単位:千円)

	平成28年3月期中間期 (H27.4.1～H27.9.30)	平成27年3月期中間期 (H26.4.1～H26.9.30)	前年同期比
売上高	6,828,967	6,665,122	102.5%
放送事業収入	6,263,267	6,121,796	102.3%
放送収入	4,120,639	4,189,863	98.3%
タイム放送料	2,951,614	3,031,673	97.4%
スポット放送料	1,169,025	1,158,189	100.9%
制作収入	1,024,503	1,084,355	94.5%
その他	1,118,123	847,576	131.9%
企画事業収入	404,011	217,141	186.1%
賃貸事業収入	116,955	281,314	41.6%
その他事業収入	44,733	44,870	99.7%

(注)金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

51 期(上期)広告会社取り扱い順位

<総合順位>

51 期	50 期	広告会社
1	2	博報堂 DY メディアパートナーズ
2	1	電通
3	3	アサツーディ・ケイ
4	4	大日本印刷
5	19	オリコビジネス&コミュニケーションズ
6	6	第一通信社
7	13	ビデオプロモーション
8	7	オフィスフラッグス
9	5	東急エージェンシー
10	14	放送文化事業

<タイム>

51 期	50 期	広告会社
1	2	博報堂DYメディアパートナーズ
2	1	電通
3	3	アサツーディ・ケイ
4	4	大日本印刷
5	14	オリコビジネス&コミュニケーションズ
6	5	第一通信社
7	6	オフィスフラッグス
8	11	ビデオプロモーション
9	7	東急エージェンシー
10	9	読売エージェンシー

<スポット>

51 期	50 期	広告会社
1	2	博報堂DYメディアパートナーズ
2	1	電通
3	3	アサツーディ・ケイ
4	4	ユータムエンタープライズ
5	5	エスプロックス
6	6	放送文化事業
7	25	リビコー
8	11	東急エージェンシー
9	7	大日本印刷
10	17	マッキャンエリクソン

平成28年3月期 中間決算短信

平成27年11月25日

会社名 株式会社 エフエム東京

URL <http://www.tfm.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 千代 勝美

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 グループ経営管理室長 (氏名) 東 和志 TEL (03) 3221-0080

配当支払開始予定日 平成27年12月10日

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年3月期中間期の連結業績 (平成27年4月1日～平成27年9月30日)

(%表示は対前年中間期増減率)

(1) 連結経営成績

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期中間期	9,160	5.7	780	0.9	837	△4.8	900	54.3
27年3月期中間期	8,669	△3.3	773	17.8	879	6.5	583	7.0

	1株当たり中間純利益		潜在株式調整後 1株当たり中間純利益	
	円	銭	円	銭
28年3月期中間期	1,005	19	—	—
27年3月期中間期	651	26	—	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円		百万円		%	
28年3月期中間期	37,611		29,002		76.2	
27年3月期	37,313		28,154		74.6	

(参考) 自己資本 28年3月期中間期 28,657百万円 27年3月期 27,819百万円

2. 配当の状況

	年間配当金					
	中間期末		期末		合計	
	円	銭	円	銭	円	銭
27年3月期	60	00	90	00	150	00
28年3月期	60	00				

3. その他

(1) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 有
- ② ①以外の会計方針の変更 有
- ③ 会計上の見積りの変更 無
- ④ 修正再表示 無

(2) 発行済株式数 (普通株式)

- ① 期末発行済株式数 (自己株式を含む) 28年3月期中間期 900,000株 27年3月期 900,000株
- ② 期末自己株式数 28年3月期中間期 4,057株 27年3月期 4,057株
- ③ 期中平均株式数 (中間期) 28年3月期中間期 895,943株 27年3月期中間期 895,943株

(参考) 個別業績の概要

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年3月期中間期の個別業績 (平成27年4月1日～平成27年9月30日)

(1) 個別経営成績

(%表示は対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期中間期	6,828	2.5	529	△13.9	780	1.5	1,082	113.6
27年3月期中間期	6,665	△5.4	615	3.8	769	11.9	506	12.3

	1株当たり中間純利益	
	円	銭
28年3月期中間期	1,202	68
27年3月期中間期	563	07

(2) 個別財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円		百万円		%	
28年3月期中間期	36,715		29,229		79.6	
27年3月期	36,267		28,196		77.7	

